

納期相談 コスト相談 オンライン技術 メイデンジャパン 試作可小ロット 量産対応



製造工場では各種反応釜が稼働。“安全第一”を掲げ操業している

『塩化リン』国内シェアトップ 化学技術への探求心は 常にひろがる

三國製薬工業 株式会社

高いシェアを誇る製品群
『塩化リン』の合成技術は
経験と実績が強い



最新のリン NMR 分析装置

創業60有余年を迎えた、リン化合物を主体とする化学品メーカーの三國製薬工業。特に、売上の約半分を占める『塩化リン（オキシ塩化リン、三塩化リン、硫酸化リン）』においては、国内で、大手メーカー2社を含む3社が製造するのみで、同社はその国内シェアトップを誇る。その他にも、国内シェア100%の製品『PNBC』『TCCP』『硫酸化リン』『3-PBO』等の製品が複数存在するという生産技術を持つ、力強い企業だ。

では、高い割合のシェアを持つには、どうしているのか。「我社は、研究開発分野に25%を超える人材を投入し、生産技術には多くのノウハウを保持しています。独自開発の設備をはじめ、産学連携にも注力し、オンラインワン製品を創ることを常に念頭に置いているのです。受注の度に新しいプロセスの工夫を入れる。それが大事」と國貞社長。これこそが同社の技術向上の軸となり、企業自体の揺るがぬ上昇思考へと繋がっているようだ。

中でも注目すべきは、独自開発の製造

設備。プロセス設計から、設備発注、建設等も、エンジニアリング会社に頼らず、できる限り自社で作りに上げるという。そんな現場の苦労が糧となり、良製品に結びついている。また、20数年前からIITを導入し、コンピュータシステムの構築を行っている。日常業務はもちろんのこと、水島工場では、プロセスコンピュータの導入による24時間稼働が実現している。

資源は有限
もったいない精神が
会社を支える

「仕事を通じて、より善い社会を作りましょう」の経営理念のもと、地球上の有限な資源をもったいないの精神で有効に利用する。それが、未来の会社を支えるビジョンだという同社。

実際、主力製品『塩化リン』の原料である『黄燐』の確保は大きなテーマであると言える。天然のリンは化石燃料と同じく、使い切るとなくなる資源のひとつ。そんな原料を全量輸入に依存している日本において、原料確保は切実な問題なのだ。リン回収技術を確立し、有限の資源を確保するため、独自にリンの回収、リサイクル技術の研究を大学の研究者と共に進めている。また、環境問題と常に向き合う化学薬品製造業だからこそ、産業廃棄物の削減や、環境負荷への低減に努めることで社会的責任と使命を果たしたいという。

「リンが無ければ人間は死んでしまう。それを阻止するのが我々の役目」。危険なリン化合物と毎日向き合い、安全に最大の注意を図りながら操業する三國製薬のもう一つの軸は、そんな社会貢献への思いからも窺える。

Company Profile

三國製薬工業株式会社

ISO 14001
ISO 9001

大阪
22

住 所 〒561-0823
豊中市神州町2-35
TEL 06-6333-5971
FAX 06-6333-3387
設 立 昭和22年2月1日
資本金 4,800万円
従業員 97名
代表取締役社長 國貞 眞司

■主な事業内容

医薬品、工業薬品、食品添加物の
製造・販売、健康補助食品の販売

■主な取引先

大手医薬品・化学品メーカー 等

<http://www.mikuni-seiyaku.co.jp>

他社には
負けない

当社のものづくり
セールスポイント

『リン化合物』製造の経験と実績、
その合成技術は当社の強み

代表取締役社長 國貞 眞司 さん



塩化リンを用いた、無機および有機塩化リン化合物の合成技術は当社の強みです。製品である『三塩化リン』『オキシ塩化リン』を用いた「化学反応」を得意としています。また、これらの合成技術を応用して医薬品中間体の製造に繋がっています。